

## IV. 研究活動の成果と成果の公刊

### IV-1. 登録研究会の活動

ビジネス創造センターに登録している研究組織の平成 20 年度における活動状況は以下のとおりです（五十音順）。

#### ICT 研究会

1. 代表幹事名：奥田和重（院アントレプレナーシップ専攻・教授）
2. 目的・内容：

「北海道（地域）あるいは企業の情報化に関わる課題の解決を図りながら I C T（情報通信技術：Information-Communication Technology）による社会・経済的価値の創造を考える」ことを目的としています。本研究会の活動は、具体的には以下の課題を中心に議論を行い解決の可能性を検討することです。

  1. 北海道（地域）の情報インフラの整備と地域経済の活性化
  2. 企業とマーケット（顧客）、企業と企業、企業内における情報化
  3. 情報教育と人材育成

#### 遠隔教育研究会

1. 代表幹事名：奥田和重（院アントレプレナーシップ専攻・教授）
2. 目的・内容：

遠隔教育の経済性評価に関する実証研究を行う。自治体の教育委員会や小・中学校と連携して遠隔教育システムを構築し、その経済性を評価するとともに、教育心理学の視点からシステムの有効性を評価する。

#### 小樽運河観光船プロジェクト研究会

1. 代表幹事名：海老名 誠（ビジネス創造センター長・教授）
2. 目的・内容：

小樽運河は小樽のもっとも重要な観光資源であると同時に、小樽市民にとっての宝とも言うべき特別な資産です。この運河を小樽の産官学で守り、同運河の更なる活性化を目指し、同運河に運河船(Canal Boat)を運航するプロジェクトを立ち上げる為、共同研究を行います。特色：小樽運河の利用・活性化を巡っては、過去数度に亘り企画が取り沙汰され、その度に頓挫して来ました。その理由は、企画主が本州資本であったり、商業主義利潤追求を目的としたからです。本プロジェクトでは、小樽資本による、小樽のための、小樽の総力戦（オール小樽）で研究する点に特色があります。

## **会計研究会**

1. 代表幹事名：坂柳 明（商学科・准教授）

2. 目的・内容：

「世界に開かれた会計」を目指し、国際会計基準の歴史的変遷について、知識を深めることを目的としています。

3. 平成20年度活動実績：

- (1)：5月24日：Camfferman and Zeff (2007) ,Camfferman, Kees and Stephen A. Zeff, “Financial Reporting and Global Capital Markets,” Oxford : Oxford University Press, 2007. の第10章, 第11章(前半)を輪読及び討論  
報告担当者（第10章）：檜山 純先生（札幌大学等（非常勤））  
報告担当者（第11章(前半)）：今村 聡先生（北海学園大学）
- (2)：6月28日：上記Camfferman and Zeff (2007) の第11章（後半）, 12章を輪読及び討論  
報告担当者（第11章(後半)）：今村 聡先生（北海学園大学）  
報告担当者（第12章）：原 晴生先生（札幌学院大学）
- (3)：7月5日：上記Camfferman and Zeff (2007) の第13章を輪読及び討論  
報告担当者（13章）：片山郁雄先生（函館大学）
- (4)：10月4日：Nobes and Parker (2008) ,Nobes, Christopher and Robert Parler (eds.), “Comparative International Accounting,” 10thed., Harlow : Prentice Hall/Financial Times, 2008. の第1～2章を輪読及び討論  
報告担当者（第1～2章）：松本康一郎先生（北星学園大学）
- (5)：11月15日：上記Nobes and Parker (2008) , の第3～4章を輪読及び討論  
報告担当者（第3～4章）：片山郁雄先生（函館大学）
- (6)：2008年12月20日：研究報告会  
松本康一郎先生： 報告タイトル：「連結会計基準の基本的課題—IFRSとのコンバージェンスのなかで—」  
石坂信一郎先生： 報告タイトル：「豪州の会計・教育・社会について」

## **開発プロセス研究会**

1. 代表幹事名：平沢尚毅（社会情報学科・准教授）

2. 目的・内容：

目的：システム（サービス、製品も含む）開発を『プロセス』の観点から探求することを目的としています。『プロセス』概念を基盤としながら、技術背景となるアーキテクチャー、組織成熟度、協働プロセスを含めた拡張概念を構想します。

特色：一般的な技術的なプロセスのみではなく、利用者、利害関係者などの人間を主体にしたプロセス論を展開します。そのため、様々な人間科学を理論背景に求めていきます。

## **CS(カスタマー・サティスファクション)研究会**

1. 代表幹事名：伊藤 一（商学科・教授）
2. 目的・内容：  
目的：企業の顧客満足経営を実現することを目的とする研究。  
内容：研究対象はサービス産業を中心に調査を展開。これまでの実績としてはホテル業を対象に実施。
3. 平成 20 年度活動実績：  
第 1 回 平成 20 年 10 月 25 日 於 小樽商科大学・札幌サテライト教室  
① 櫻井 英彦氏（北海道薬科大学）  
「保険薬局が提供する医療サービスに関する品質評価尺度の実証的研究」  
② 沈 潔如氏（小樽商科大学・現代商学専攻・博士後期課程）  
「香港における日本の地域ブランドの有効性：バイヤー調査を中心に」

## **経営研究会**

1. 代表幹事名：高田聡（商学科・教授）
2. 目的・内容：  
経営学に関する理論及び実証研究を中心に研究報告会を開催。商学科経営学講座のスタッフが中心となる活動であるが、より広く報告・参加者を募り、知識の幅広い交流も目指している。
3. 平成 20 年度活動実績： 下記、 5 回の研究会を開催した。

### 第 1 回（神戸大学工業経営研究会との共同開催）

日時 6 月 28 日（土） 15：00～ 場所 研究棟 B 会議室

報告者 宗像正幸氏 論題「ドイツ文化・企業経営研究の現代的意義」

報告者 児山俊行氏 論題「イタリア産地の学習メカニズム」

報告者 篠崎恒夫氏 論題「日本におけるコーポレートガバナンスの新動向」

### 第 2 回

日時 10 月 10 日（金） 14：30～ 場所 研究棟 B 会議室

報告者 徳井美智代氏（メインコメンター田中幹大氏） 論題「小零細製造業における業主の妻の役割 - 東京都大田区の事例から - 」

### 第 3 回

日時 11 月 7 日（金） 14：30～ 場所 研究棟 B 会議室

報告者 松尾睦氏 論題「医療組織における学習とリーダーシップ」

### 第 4 回（マーケティング研究会及び地域研究会との共同開催）

日時 12月12日(金) 14:30～ 場所 研究棟B会議室  
報告者 Neil Clymer氏 論題「Southwest flies Northeast business proposal」

#### 第5回

日時 3月27日(金) 15:00～ 場所 研究棟B会議室  
報告者 (メインコメンター) 加賀田和弘氏, (応答報告) 松尾睦氏 論題「松尾睦稿『学習する病院組織：患者中心医療の創造』をめぐって」

### **経済研究会(土曜研究会)**

1. 代表幹事名：廣瀬健一（経済学科・准教授）
2. 目的・内容：  
この研究会の目的は当学における研究活動に対する啓蒙であり，当学内外の研究者の研究報告により，経済学の最新の研究テーマに触れる機会を当学研究者に提供するとともに，テーマを巡る議論を通じて研究会参加者の研究活動を促進することです。
3. 平成20年度活動実績：  
8月1日(金) 下津克己(Queen's University) : Sequential Estimation of Structural Models with Fixed Point Constraint  
  
8月1日(金) 井堀利宏(東京大学) : Interregional Tax Competition and Intraregional Political Competition: The Optimal Provision of Public Goods under Representative Democracy  
  
10月3日(金) 福田慎一(東京大学) : Infrequent Changes of Policy Target: Stop-Go Monetary Policy under Ambiguity  
  
11月14日(金) 胡雲芳(東北大学) : Optimal entry restriction for new industry  
  
11月21日(金) 平口良司(京都大学) : Wealth Inequality and Optimal Taxation  
  
2月13日(金) 小林慶一郎(産業経済研究所) : Asset-price Collapse and Market Disruption  
  
3月27日(金) 桃田朗(大阪府立大学) : A Population-Macroeconomic Growth Model for Currently Developing Countries
4. 平成20年度研究成果(刊行物, HPなど) :  
経済研究会活動履歴

<http://www.otaru-uc.ac.jp/dept/econ/workshop.html>

## **国際取引契約研究会**

1. 代表幹事名：中村秀雄（院アントレプレナーシップ専攻・教授）
2. 目的・内容：  
① 輸出入取引，国際取引のノウハウ，② 国際的事業をどう構築すればよいか，③ 国際取引契約書（特に英文契約書）検討のコツ，などについて研究している。2008年度は英文の国際代理店契約を読んだほか，貿易の法務についての知識を深めました。
3. 平成20年度活動実績：  
研究会を9回実施し，延べ118人の出席があった。新入会員は14人と，順調に運営されている。

## **商学研究会**

1. 代表幹事名：渡辺和夫（商学科・教授）
2. 目的・内容：  
商学科所属教官全員がメンバー。商学科教官および学外の研究者による研究発表ならびに意見交換等を行う。各教官の研究内容について，これを専門分野にとらわれることなく，多角的な視点から議論することを特色とします。
3. 平成20年度活動実績：  
6月4日（水）13：00-14：20  
金 鎔基「アメリカにおけるHPWS（High Performance Work System）と労使関係」  
11月8日（土）16：00-  
加賀田和弘「環境経営と持続的競争優位の構築に関する考察—環境経営と企業財務業績に関する実証分析から—」  
11月26日（水）13：00-  
Dr. Chew Yin Teng（モナシュ大学マレーシア校）「How Automotive Vendors Enhance Competitiveness via Technical Assistance and other Strategies」

## **進化経済学ワークショップ**

1. 代表幹事名：江頭 進（経済学科・准教授）
2. 目的・内容：  
経済・社会の複雑な発展過程を「進化」をキーワードとして，さまざまな角度から分析します。その特に複製子-相互作用子の概念を基礎としながら，経済・社会を知識生態系として捉え，その発達と崩壊過程を論じることを目的としています。

## **地域環境問題研究会**

1. 代表幹事名：八木宏樹（一般教育等・教授），事務局：山本 充（院アントレプレナーシップ専攻・准教授）
2. 目的・内容：  
地域社会が抱える環境問題を自然科学・社会科学の両面から分析し，その解決に向けた処方箋や情報を提供することを目的とします。

## **地域研究会**

1. 代表幹事名：穴沢 眞（商学科・教授）
2. 目的・内容：  
本研究会の目的は以下の4点です。
  - （1）概算要求で申請した研究テーマ「グローバリズムと地域経済」をメンバーで再考し，実行可能な計画を策定します。
  - （2）合同研究会を開催します。
  - （3）学内の研究資源を把握し，概算要求のプロジェクト実行時にスムーズに研究体制を構築する準備を行います。
  - （4）若手研究者を中心に，外国語での研究業績を増加させるための技術的，財政的支援を行います。

## **地方政治システム研究会**

1. 代表幹事名：相内俊一（院アントレプレナーシップ専攻・教授）
2. 目的・内容：  
地方政府のマネジメントを，財政バランス・政策選択の優先順位・住民満足度・発展戦略などの観点から研究します。

## **地方政府レベルにおける多文化主義的地域政策研究会**

1. 代表幹事名：相内俊一（院アントレプレナーシップ専攻・教授）
2. 目的・内容：  
北海道の市町村における多文化主義的地域政策推進のための諸条件，政策領域の可能性などについて，比較文化的観点から研究し，地方政府の政策形成に寄与することを目的とします。

## **法制研究会**

1. 代表幹事名：今本啓介（企業法学科・准教授） 河野憲一郎（企業法学科・准教授）
2. 目的・内容：  
広く法律学一般に関する学術の進歩を図るため、これに必要な調査研究発表を行うとともに、  
教官相互の研鑽と大学院教育の向上に寄与すること。  
内容：小樽商科大学商学部企業法学科所属の教官および院生の研究発表。  
1998年度以降は、大学院科目「法学総合研究A」「法学総合研究B」として、大学院生の教育の場ともなっています。
4. 平成20年度研究成果（刊行物、HPなど）：  
平成20年度に開催された法制研究会の各報告題目などが、  
<http://www.otaru-uc.ac.jp/dept/law/housei/housei08.html> で公開されています。

## **北東アジア・サハリン研究会**

1. 代表幹事名：李 濟民（院アントレプレナーシップ専攻・教授）
2. 目的・内容：  
経済活性化が望まれている北海道と大規模石油・ガス開発プロジェクトを実現しつつあるサハリンとの関係を中心軸にとり、それを取り囲む北東アジア地域の様々な問題群を検討します。

## **北海道ヘルスケア・マネジメント研究会**

1. 代表幹事名：李 濟民（院アントレプレナーシップ専攻・教授）
2. 目的・内容：  
「医療経営」に関する研究，調査，セミナーを実施

## **マーケティング研究会**

1. 代表幹事名：プラート・カロラス（商学科・教授）
2. 目的・内容：  
本研究会の目的はマーケティング分野における最新研究に関する情報交換及び研究者交流の場を設けることです。本研究会におきましては、マーケティング関連の学内及び学外研究

者による最新研究の報告，議論を行います。

3. 平成20年度活動実績：

第1回目のマーケティング研究会はマーケティング研究会・経営研究会・地域研究会合同研究会として行われた。

日時 12月12日（金） 14：30～16：00

場所 小樽商科大学研究棟B会議室

報告者 Neil Clymer 先生 論題 Southwest flies Northeast business proposal

言語：English

Brief description: “Southwest flies Northeast” is a business proposal that was created for Southwest Airlines by professor and students of Neil Clymer’s 2006-2007 Management Strategy Seminar.

The proposal concerns the selection of Shin Chitose airport as an international hub spanning second city airports in the United States and China. The proposal broadly addresses six topics: 1) reasons for selecting Shin Chitose as the hub, 2) the markets for this service, 3) selection of spoke airports at both ends of the network, 4) flight schedules, 5) revenue and costs, and 6) recommended airlines to run the network.